

幻覚・妄想

	No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
1	1	プロポーズされた	好きなテレビタレントに「結婚しようと言われた」と思い込み、1人でテレビ局まで行こうとして、警察やデイサービス事業所の送迎車に保護されることが数回あった。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	娘家族と同居。同居する半年程前に夫が他界している。自宅に閉じこもりがちな生活。	認知症対応型通所介護の利用を開始した。スタッフが、本人の好きなテレビタレントのお面を作るなどの工夫をした。	お面を使わなくても継続利用につながり、笑顔で過ごす時間が増えた。
2	2	色々な物が見えて落ち着かない	幻覚・幻聴の内容について、具体的な言葉で話す。普段は穏やかな表情であるが、落ち着きがなく、ゆっくり座ることは少ない。	グループホーム 介護職	7年前より幻覚あり、レビー小体型認知症とうつ病と診断される。近くに住む息子が様子を見ながら支えていたが、認知症悪化で独居生活困難となりグループホーム入居となった。	本人の希望にて家事の手伝いを行ってもらった。幻覚や幻聴出現時は、否定せず寄り添った。	毎日、自ら決まった家事の手伝いを行い、楽しそうに生活している。
	3		幻覚や独り言が多い。誰かが見えている様子で、ずっと話し続けることがある。	デイサービス 介護職	独居である。娘が近所に住んでいるため、朝と夕の2回、食事を運んでもらっている。認知症と統合失調症がある。	デイサービスでの作業や塗り絵などの活動を通して、他者との交流を図った。落ち着かない時は、スタッフが隣に座り、一緒に話をするようにした。	当初は、体操やレクリエーションの輪の中に入る事に拒否があり、離れたソファで荷物を持ったまま見学していたが、徐々に慣れて参加している。その間、独り言や幻覚もなく過ごせている。
	4		「知らない人がベッドの周りをウロウロして怖くて眠れない。傷病兵や白い袋をかぶせられた人がベッドに2人寝ていて、自分がベッドに眠れない」と言っ て、リビングの椅子でテレビを 一晩中つけて眠っていた。時には「助けて」と大声を出しながら外に出てしまい、近所で救急車を呼ばれる騒動になった。幻覚は昼も見えており「和室に誰かがいるから」と落ち着かない。	訪問看護ステーション 看護師	息子と2人暮らし。息子は就労しているため、日中は1人になる。娘が週に2回泊まりに来て、身の回りの世話をしている。デイサービスは以前利用していたが、現在は本人が嫌がるため利用せず、ヘルパーを1～2回/日・訪問看護を1回/週利用している。室内は歩行器を使用し、身の回りのことは大体自分で行える。	ケアマネジャーを通じて、家族（娘）を交えてカンファレンスを行い、夜間も含めてなるべく1人になる時間を作らないようにした。主治医へ相談し、薬物療法が開始された。ショートステイの日程を2～3日から1週間～10日間に期間を延長した。訪問時には本人の話を傾聴し、「あそこに人が居る」と言った場合、一緒にその場所まで行って誰もいない事を確かめた。	娘と一緒にいる時間を長くすることで安心し落ち着く様子もみられるようになった。幻覚が見えていても「これは私にしか見えない事なのよね」「怖くなくなった」と話している。ショートステイも慣れた事もあり、幻覚があっても落ち着いて過ごしている。

幻覚・妄想

	No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
	5		介護サービスは「自分でできて いるからいらない。」と、外出 も拒否し、1日中自室で過ごして いた。「誰かが部屋にいる」等 の幻覚や独り言があり、些細な ことで興奮し、「今日死ぬ」と 大声を出すこともあった。嫁に は強い口調で話し、嫁は対応で 疲弊し関わることができない精 神状態となった。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	長男夫婦と同居。要介護1。排 泄・入浴・食事は自立している が、物忘れや嫁に対する幻覚に よる暴言があるため、ケアマネ ジャーが家族より相談を受けて いた。サービスを導入せずしば らく様子を見ていたところ、幻 覚や意識消失が続いたため受診 すると、レビー小体型認知症と 診断された。	レビー小体型認知症と診断されたことで、家族も 症状を受容することができた。それに伴い、週4 回のデイサービスを開始した。訪問時は傾聴の姿 勢で関わった。	当初はサービスの受け入れを拒否してい たが不安との思いが芽生え、デイサービ スの導入・継続ができた。その後は「周 りのみんながよくしてくれて楽しい、あ りがたい」という言葉が聞かれるようにな った。
3	6	自分の物を盗られた	物盗られ妄想があり、息子の外 出中に「女が来て、私の物を 盗って行った」という理由で警 察に電話をした。	訪問看護ステーション 看護師	息子と2人暮らし。他に介護者は いない。	本人に警察に電話した理由をゆっくり聴き、心配 ない事を説明した。	ゆっくりと話をしたことで落ち着いた。 今後の対応について息子やケアマネ ジャーと話し合いをすることができた。
	7		「息子が薬を持って行ってしま う」「家を狙っている」との妄 想がある。	訪問看護ステーション 看護師	独居。日常生活動作は自立して いる。妄想があるため、医師か らは家族の付き添いがないと薬 を処方できないと言われていて が、家族から受診に同行する協 力は得られていない。	ケアマネジャーに医師の意向を伝え、受診同行の 支援を調整した。薬を処方してもらうことがで き、薬はお薬カレンダーを使用し、確実に服用が 行えるように介入した。	薬の飲み忘れはなく経過している。本人 は、薬を飲み始めてから「余計な心配が 少なくなった。」と話している。
	8		他の利用者が使用している座布 団を無理やり取り上げようと して、大きな声を出し、相手をた たいてしまう。	小規模多機能型居宅介護 介護職	夫と2人暮らし。物盗られ妄想が あり、他人の物でも自分の物だ と強く言い、時に暴力をふるっ て奪うことがある。週1回で小 規模多機能を泊まりで利用して いる。	妄想が見られた際、落ち着いてもらうために、そ の場から少し離れて、本人の話を聞いた。相手の 目をじっと見つめて、「味方ですよ」と本人が思 えるように関わった。	落ち着くと笑顔になる。話し方も柔らか くなり鼻歌を歌う様子も見られた。
	9		体調により「物がなくなった」 など、妄想がみられることがあ る。	居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	有料老人ホーム入居。腰痛や膝 痛があり、長い距離は歩けな い。精神的にうつ傾向が強い。 日常生活動作が低下傾向であ る。	本人の体調や気分に合わせ、時間をずらして対応 した。「お金や物がなくなった」の訴えがあった 時は、ヘルパーと一緒に探した。	探していた物が見つかり、本人は安心し た様子であった。「ありがとう」という 言葉も聞かれた。

幻覚・妄想

	No.	表題	症状・BPSDについて 起こった出来事	事例提供者	背景や生活状況、病状など	症状・BPSDに対して 行った支援	結果 その後のご本人、介護者の状態
4	10	人の悪口をひたすら言う	ひたすらまわりの人の悪口を 言っている。作り話や被害妄想 を訴えることが多い。	理学療法士	独居。ヘルパーや訪問看護など が定期的に入っている。週1回 息子夫婦が買物、料理などを 行っている。	本人が話す内容に「そうですね」と相槌をうちな がら受けとめるように対応した。	同じ話を繰り返すが、本人はすっきりし た様子。家族も同様の対応している。